

# 平成19年度企業会計の

## 決算内容をお知らせします

### 病院事業

医療制度改革や医師臨床研修制度に伴う勤務医不足等の影響を受け、多くの公立病院が経営状況を悪化させています。

このような状況の中、光市病院局では短期改善計画を策定し経営改善に努めてきましたが、平成19年度は前年度に引き続き赤字決算となりました。

### 公立病院改革プランの策定

平成19年12月に総務省は、公立病院改革ガイドラインを示し、「経営効率化」、「再編・ネットワーク化」、「経営形態の見直し」の三つの視点に立った改革を一体的に推進するように自治体に通知しました。

また、公立病院が今後とも、地域において必要な医療を安定的かつ継続的に提供していくために公立病院改革プランを策定し、病院事業経営の改革を総合的に取り組むよう要請しています。

光市では公立病院改革ガイドラインの趣旨を踏まえ、平成20年度中に、公立病院改革プランを策定し公表する予定としています。

### 平成19年度決算の概要

平成19年度決算は、総収入約59億6300万円に対し、総費用約61億8800万円で、差し引き約2億2500万円の赤字になりました。その結果、累積欠損金は約13億9000万円となっています。

病院別では、光総合病院は約9500万円の赤字となり、原因としては平成18年度設備投資（オーダーリングシステムやMRIほか）による減価償却費の増加等による影響が考えられます。

大和総合病院は約1億3000万円の赤字となりましたが、泌尿器科外来の休止や年度途中での整形外科医師の退職等により収益が減少したことなどが主な理由です。

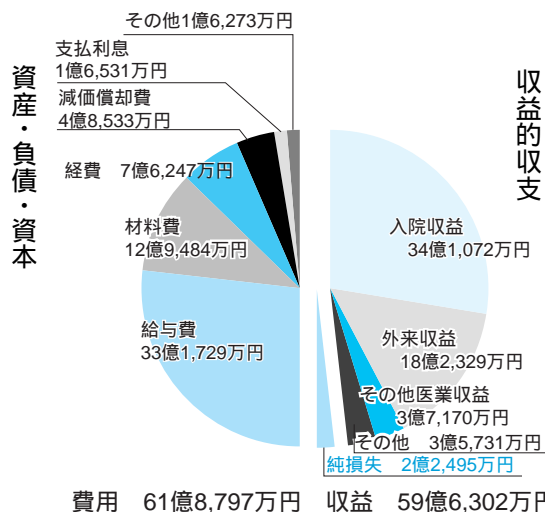


	光総合病院(210床)		大和総合病院(280床)	
	平成19年	平成18年	平成19年	平成18年
年延入院患者数	5万4,597人	5万3,062人	6万5,652人	7万984人
年延外来患者数	10万7,055人	12万1,457人	9万2,874人	9万9,881人
病床利用率	71.0%	69.2%	64.1%	69.5%
総収益	30億9,706万円	29億5,609万円	28億6,596万円	32億892万円
総費用	31億9,168万円	31億2,506万円	29億9,629万円	32億3,219万円
収支差引	▲9,462万円	▲1億6,897万円	▲1億3,033万円	▲2,327万円

病床利用率...年延入院患者数 / 年延病床数

資産	
固定資産	75億1,466万円
流動資産	49億8,510万円
繰延勘定	1,917万円
<b>資産計</b>	<b>125億1,893万円</b>

負債・資本	
固定負債	6億7,941万円
流動負債	3億3,391万円
自己資本	41億8,330万円
借入資本	52億8,711万円
資本剰余金	33億9,538万円
利益剰余金	13億6,018万円
<b>負債・資本計</b>	<b>125億1,893万円</b>



用語の説明は4頁をご覧ください。

## 平成20年度上半期の状況

(平成20年4月1日～9月30日)

平成20年度上半期の収支状況は、前年度同期と比べ患者数が減少し、収益も減少していることから、前年度に引き続き厳しい状況となっております。

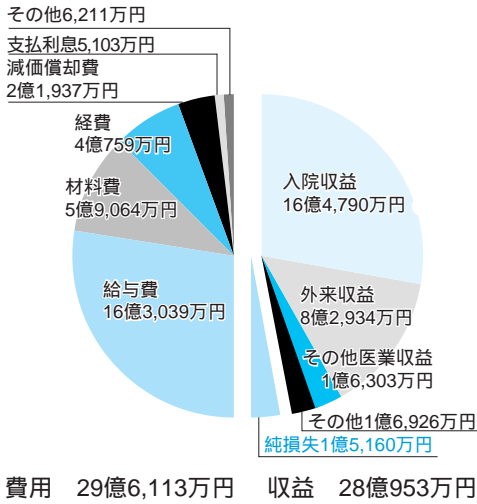
### 延入院患者数( )は前年同期

- ・光総合病院  
26,093人(26,723人)
- ・大和総合病院  
30,639人(33,037人)

### 延外来患者数( )は前年同期

- ・光総合病院  
51,102人(55,692人)
- ・大和総合病院  
42,193人(47,176人)

### 上半期収益的収支



## 介護老人保健施設事業

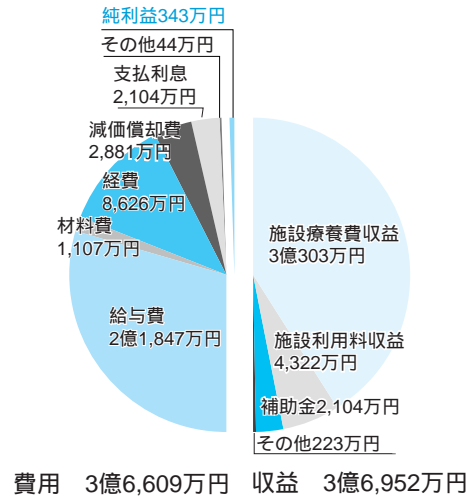
平成19年度は、理学療法士や介護職員など要員確保が困難な状況にありましたが、職員全員による業務改善や感染症対策、身体拘束・虐待防止、床擦れ予防などの担当者を選任し、音楽療法、園芸活動に積極的に取り組むとともにサービスの向上を図りつつ、効率的な施設運営に努めました。

### 平成19年度決算の概要

光市介護老人保健施設事業の平成19年度決算は、343万円の純利益となりました。その結果、当年度末繰越利益剰余金は2748万円となっています。

	平成19年	平成18年
年延入所者数	2万5,745人	2万5,673人
年延通所者数	4,885人	5,701人
総収益	3億6,952万円	3億8,065万円
総費用	3億6,609万円	3億7,172万円
収支差引	343万円	893万円

### 収益的収支



### 資産・負債・資本

資産	金額	負債	金額
固定資産	9億5,613万円	固定負債	4,260万円
流動資産	2億9,886万円	流動負債	2,187万円
<b>資産計</b>	<b>12億5,499万円</b>	<b>負債・資本計</b>	<b>12億5,499万円</b>
		自己資本金	638万円
		借入資本金	9億7,427万円
		資本剰余金	1億8,078万円
		利益剰余金	2,909万円

## 平成20年度上半期の状況

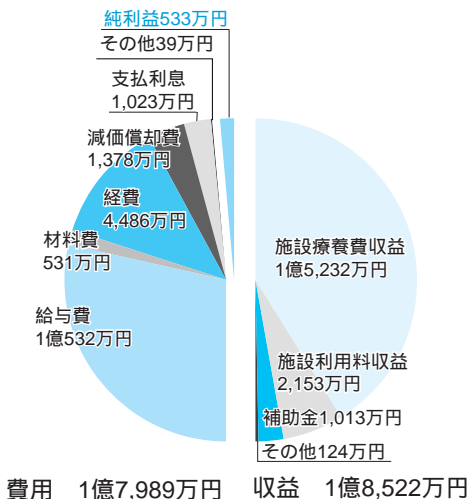
(平成20年4月1日～9月30日)

平成20年度上半期の利用者状況について、延べ利用者数は若干減少しているものの、入所者数、通所者数とも前年度並みとなっています。

上半期延入所者数( )は前年同期  
12,865人(12,885人)

上半期延通所者数( )は前年同期  
2,458人(2,466人)

### 上半期収益的収支



# 水道事業会計

光市水道局では、市民の皆さんに安全な水を安定的に供給するため、経営の効率化や施設の適切な維持管理に努めました。



## 平成19年度決算の概要

未給水地域の解消および安定給水を図るため、配水管網の整備、清山配水池電気設備工事等の第4次拡張事業を実施するとともに、給水区域の赤水対策や出水不良の改善、漏水防止対策のため、老朽配水管布設替工事等の配水管整備事業を実施しました。

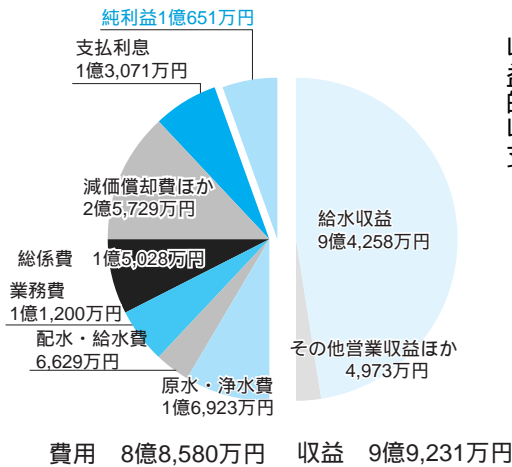
また、上ヶ原簡易水道、大和簡易水道の上水道統合に向け、送・配水管の布設工事や配水施設の整備工事を実施しました。

給水戸数 1万8718戸  
 総配水量 1108万m<sup>3</sup>  
 有収水量 991万m<sup>3</sup>

## 資産・負債・資本

資産	固定資産	76億8,484万円	負債	固定負債	8,500万円
	流動資産	6億979万円		流動負債	2億4,139万円
	繰延勘定	1億761万円		自己資本金	14億5,033万円
資産計			負債・資本計		
84億224万円			84億224万円		
資本	借入資本金	55億5,579万円	資本剰余金	10億6,973万円	

## 収益的収支



## 平成20年度上半期の状況

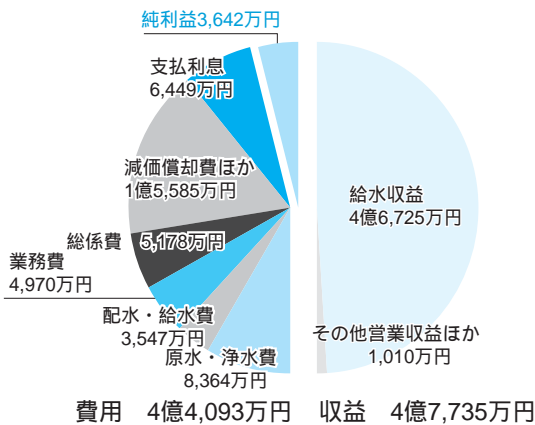
(平成20年4月1日～9月30日)

未給水地域の解消および安定給水を図るため、配水管網の整備工事を実施するとともに、赤水・出水不良・漏水防止対策として、老朽配水管の布設替工事を実施しています。

また、大和簡易水道の上水道統合に向け、送・配水管の布設工事や配水施設の整備工事を実施しています。

給水戸数 1万8872戸  
 総配水量 531万m<sup>3</sup>  
 有収水量 453万m<sup>3</sup>

## 上半期収益的収支



## 用語の説明

固定資産：土地、建物、医療機器や配水管などの備品の資産価格（取得後の経過年数により減価償却した後の金額）

流動資産：現金預金や未収金などの固定資産以外の資産

繰延勘定：将来発生する費用や収益を財務会計上、繰り延べたもの

固定負債：退職給与引当金や修繕引当金

流動負債：未払金など将来に支払う必要のある金額

借入資本金：企業債などの借金（民間企業では負債に分類されますが、公営企業会計では資本に分類されます）

資本剰余金：事業活動から発生する利益や国庫補助金、寄付金、会計負担金など

減価償却費：建物、医療機器などを使用することで経済的価値が減少する公営企業法の耐用年数に基づき費用化したもの

## 病院事業・介護老人保健施設事業関係

累積欠損金：今までの赤字分

その他営業収益：室料、健診料など

材料費：薬品、診療材料など

経費：光熱水費、修繕費、委託料など

支払利息：企業債の利息

## 水道事業関係

総係費：土地賃貸料など事業活動全般に関する費用

配水および給水費：浄水場で製造された水を需要者まで送る費用や維持管理費

原水および浄水費：水道の取水から浄水に要する薬品費や動力費など維持管理に要する費用